

# オイスカ in 四国

<http://www.oisca459.org/>

オイスカ (OISCA) の意味

O…Organization (機構) I…Industrial (産業) S…Spiritual (精神) C…Cultural (文化) A…Advancement (促進)

# Vol. 8

2011年8月



JICA (国際協力機構) 農産物加工コースの実習風景



Cultivate the Future  
—大地と共に、もっとドラマを—

## contents

2011年10月6日、  
**オイスカは50周年を迎えます**

『子供の森』計画20周年

特集記事 『マレーシア農業機械支援』

推進協議会の紹介

香川東推進協議会 徳島県推進協議会 綾川推進協議会  
高知県推進協議会 坂出推進協議会 高松推進協議会  
中讃推進協議会 三豊推進協議会 香川女性部

あなたもオイスカ活動をサポートしませんか？



## オイスカの会員・支援者になって、国際協力活動に参加しませんか？

オイスカが進める人材育成、海外開発協力、環境保全および啓発普及活動は、長期的な取り組みが必要です。継続的なご支援をお願いいたします。

賛助会員種別	特別会員(年額一口)	法人 10万円	個人 5万円
	維持会員(年額一口)	法人 4万円	個人 2万円
	マンスリー会員	月額: 2,000円	

- 毎月、国内外での活動の様子や特集記事など情報満載の月刊「OISCA」をお送りいたします。
- オイスカが主催する講演会、シンポジウム、森づくり体験活動などの各種イベント、海外の視察・交流・植林ボランティアに参加いただけます。
- 当法人は「公益認定」を受けている公益財団法人です。当法人に対する寄付金や賛助会費は所得税や法人税の税控除、および個人住民税の税額控除(但し、条例で首長の指定を受けている自治体のみ)が適用されます。

お申し込みはオイスカ四国支部もしくは、お近くのオイスカ推進協議会まで直接お問い合わせください。オイスカのホームページ「入会フォーム」からも申し込みができます。



## 『子供の森』計画 支援者募集中

「子供の森」計画は、世界各地の子どもたちが学校単位で参加する森づくり活動です。子どもたちが学校や地域で苗木を植えて、森を育てることで彼らの心の中に「自然を愛する気持ち」や「緑を大切にしたい気持ち」を育てていきます。1991年にスタートし、今では4,000を超える学校の子どもたちが森を育てています。

### 子どもたちの植林・育林活動

植林・育林に必要な物資の支援、植林・育林の指導、学校での苗木や堆肥づくりの指導、植林イベントなどを行っています。

### 自然を愛する心を育む環境教育

自然や緑を大切にしたい気持ちを育み、実際に行動できる力を身につけるために、セミナー、環境キャンプ、自然観察、ゴミリサイクルや堆肥づくりなど、楽しみながら学べる活動を多く取り入れています。

### 森の再生、そして地域へと展開

森の管理や手入れ、森を活用した作物栽培や体験活動などを実施しています。また地域の大人たちへ説明会やセミナーなどを通して理解や協力を求め、地域ぐるみの活動へと発展しています。



## 支援者募集中

募金やベルマーク、書き損じはがきの回収など、支援の形はさまざまです。一口5000円からの支援金で支援者登録ができます。支援者の方へは支援地域の活動レポートや現地からのグリーティングカードなどが届けられます。オイスカのホームページからもお申し込み頂けます。 <http://www.oisca.org/project/cfp/>

※何口でもお申し込みできます。

※支援金は、世界中の学校での森づくり(苗木代、肥料代、植林用機材費、植林後管理費)、環境教育(文房具代、環境教育機材費、学校施設実費)などに活用されます。

## お問い合わせ先

■四国支部	〒760-0017 香川県高松市番町 2-17-15 第二讃機ビル 2F	☎ (087) 821-1503
◆高松推進協議会	〒760-0017 香川県高松市番町 2-17-15 第二讃機ビル 2F	☎ (087) 821-1503
◆坂出推進協議会	〒762-0011 香川県坂出市江尻町 1721-10 (柳石井内)	☎ (0877) 45-0141
◆三豊推進協議会	〒769-1502 香川県三豊市豊中町笠田笠岡 3915-3 (柳イナダ内)	☎ (0875) 56-6001
◆香川東推進協議会	〒769-2304 香川県さぬき市昭和5806(高松東ファクトリーパーク さぬき市管理組合内)	☎ (087) 899-1111
◆中讃推進協議会	〒763-0034 香川県丸亀市大手町 3-2-1 (四国電力丸亀営業所内)	☎ (0877) 22-5973
◆綾川推進協議会	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1 (オイスカ四国研修センター内)	☎ (087) 876-3333
◆徳島県推進協議会	〒770-8555 徳島県徳島市寺島本町東 2-29 (四国電力徳島支店 総務課内)	☎ (090) 3181-0158
◆高知県推進協議会	〒780-0870 高知県高知市本町 1-6-24 (高知商工会議所 総務部内)	☎ (088) 875-1177
■四国研修センター	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1 <a href="http://www.oisca459.org/">http://www.oisca459.org/</a> E-mail <a href="mailto:oisca459@oisca.org">oisca459@oisca.org</a>	☎ (087) 876-3333

今回の寄贈に対し、研修センターから「今回ご支援いただいたほとんどの農業機械は、これまでセンターにはありませんでした。」

4月27日に神戸港を出発し、5月18日に日本からマレーシアコタキナバル港に到着しました。その後、農業農工省による関税免除の許可が長引きましたが、神戸港を出て約2か月かかり、センターへの搬送が完了しました。

平成23年6月24日、香川東推進協議会の山下一馬氏が寄贈した農業機械等がマレーシア・サバ州テノムのKPD/オイスカ青年研修センターへ無事到着しました。山下氏はご自身も農業を営んでおり、研修センターを度々訪問。現地での農業の様子も何度か視察され、必要とされる機械等ばかりを選びました。内訳はコンバイン2台、籾摺り機、乾燥機、選別計量機、トンネルフィルム、トンネル支柱、育苗箱、コンバイン用米袋。

この寄贈にあたっては、山下氏が中古機械の購入、日本国内の輸送費を負担することになりました。その一方で、マレーシアへの輸送費をどのように工面するべきか度重なる調整を行ってきました。その結果、高松推進協議会、香川東推進協議会をはじめ、有志の皆様のご協力を得て輸送の目処がつけました。



機械の導入により二期作が可能になり、収益の増大が見込まれる



外注していた籾の乾燥から籾摺りまで自前で調整し、経費節減に

した。これらの農業機械によりセンターにおける農業研修活動が飛躍的に効率化し、また研修生に対し貴重な体験学習の一つとして提供することが出来ま

「と、心強い今後の抱負を頂きました。皆の思いが詰まったコンバイン達、サバの地でしっかりと活躍してほしいものです。」

## マレーシア農業機械支援 （農業機械に思いをのせて） サバ州テノム・KPD/オイスカ青年研修センター

平成23年2月1日オイスカ香川東支局からオイスカ香川東推進協議会へ移行し、新しく衣替えしたところ

です。歴史は東讃に支局をと言うことで高松から分離独立し現在に至ります。

一代目谷利一会長、二代目山野善正会長、三代目白井秀樹会長となつていきましたが任期半ばで病气により退任され、四代目として就任致しました。

支局が誕生し香川県東部を中心にいろいろな場所でも多くの学校、団体にご協力をいただき植林を実施してまいりました。最近植林する適当な場所が少なくなってきたよう

海外につきましては、ミャンマーへ志度ライオンズクラブの小学校建設、長尾ライオンズクラブの保育所建設の仲介をいたしました。マレーシアのテノム研修センターへ白井会長と山下氏が訪問し、米の新しい品種野菜、畜産の可能性について話をしました。今回山下氏個人でテノム研修センターへ中古の農機具を寄附される話が四国研修センターのお世話により実現致しました。

このように厳しい社会環境と会員の高齢化という中ではありますが、止むことないオイスカの活動が重要です。アジアでの農業技術や環境保全



研修生と積極的に交流を図る会員



7月11日に執り行われた定例総会



会長 富田 義雄

について人々に伝え、指導するリーダーを育てる国際活動の輪を大きくすることです。今年はそのような目標に向けて一歩づつ前進していきたいと思えます。会員皆様のご支援ご協力の程宜しくお願い致します。

## 香川東推進協議会

# OISCA 50th Anniversary Since 1961

## 2011年10月6日、オイスカは50周年を迎えます

### オイスカの理念

「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して創立された国際NGOオイスカ・インターナショナル。その理念を具体的な活動によって推進する組織として公益財団法人オイスカが生まれました。

### オイスカの歩み

「世界はひとつ。恐怖なく不安のない、世界を築きたい」ひとりの日本人が強く願い、世界平和を訴える世界のリーダーや宗教家たちと話し合いを始めたのが1954年のこと。

2年にわたって行われた8回の会議を経てたどり着いたのは「政治や宗教の力ではなく、具体的な活動を通して人々の団結が必要だ」との結論でした。

そのための常設機関設置に向けた準備が重ねられ、オイスカが誕生となりました。

そして、2011年10月6日、オイスカ50周年を迎えます。



昭和43年(1965年)オイスカ四国研修センター香川郡香南町に開所しました



「いっしょに汗を流す」のはオイスカの基本的な考えです



昭和50年(1975年)インドへ出発するオイスカ開発団



昭和56年(1981年)オイスカ四国研修センターは綾南町陶に移転



地域の方との餅つき交流



大きく育て、僕の苗木たち

「子供の森」計画は今年20周年を迎えます。

1991年にスタートした「子供の森」計画は2011年に20周年を迎えます。フィリピンの17校の学校から始動した本プログラムは、世界中でさまざまな環境問題が深刻化する中、年々世界各地での活動要請が増え、20年を経た現在、27カ国の4410の学校で展開されるまでになりました。

さらに多くの子どもたちに「子供の森」計画を通じて、自然や生物多様性を尊びながら、自らの「ふるさと」のために活動できる大人へと育つように働きかけていきたいと考えています。



### 徳島県推進協議会

徳島県推進協議会は、前身の徳島県支部を発展的に解消し、平成23年2月1日に発足しました。会員数は約60名あまり。前身の徳島県支部は平成5年7月に設立されており、今年で16年の活動歴となります。

主な活動としては、年2回の幹事会の開催。20数名の全役員が参加し、総会付議案等を審議し、役員間での情報交換を行います。年一度の通常総会開催。全会員を対象とし、年度計画、前年度活動結果等を審議します。

研修生とのふれあい行事として、四国のつどいin徳島への招待。通常総会開催後の交流パーティーであり、その席で研修生の研修状況報告、母国の踊り等を披露していただいています。

また夏の阿波踊りへの招待。会員企業である四国電力徳島支店の協力を得て、研修生全員を招待し、本場の雰囲気を楽しんでいただいています。毎回、短い練習時間で、上手に踊る研修生のリズム感のよさに感じています。

その他のふれあい行事も随時、開催しています。また、植林も過去、毎年実施していましたが、現在は、中断していますが、過去の植林行事に協力していた

だいた県内の友好団体の森づくり事業に、参加協力し、間伐作業等を実施しています。

このように徳島県推進協議会は、無理なくできる範囲での活動を継続しています。

昨今の厳しい社会経済情勢のあり、社会貢献活動に積極的に参加するのは、制約が多いかと思いますが、地球環境を考え、アジア太平洋諸国の発展を有為な人材育成を通じて支援するという、オイスカの基本理念に賛成し、活動に参加、支援していただく方が、ひとりでも、多くなることをお願いし、私のご挨拶といたします。



会長 米田 豊彦



徳島女性部の皆さんとよんでん連で阿波踊りに挑戦

### 高知県推進協議会

#### 地域で森林への啓発普及活動を実施

財団法人オイスカの公益財団法人への移行を受け、オイスカ高知県支部は、高知県推進協議会として、平成23年2月1日に発足しました。会員数は約40名と決して多いとは言えませんが、会員各位が、それぞれの立場でオイスカの普及活動に努めております。

主な活動としては、四国森林管理局、四国電力㈱高知支店との共催による「ふれあい親子体験ツアー」と題した、森林やダム、水に興味を持つ小学生とその保護者を対象に、発電所の見学や植樹体験を実施しております。

また、夏休みには、四国森林管理局と共催で「夏休み親子ふれあい木工教室」を開催し、その行事の中で四国研修センターの研修生を中心に「つみき教室」を行い、子どもたちだけではなく、保護者のみなさんからも「童心に返って楽しかった」、「子どもの笑顔に癒された」などのお話何え、たいへん好評をいただきました。私たちは、これらの活動などを通じて、オイスカと地域社会との交流をなお一層深めていければと考えております。

最後にオイスカの基本理念に賛同

し、活動に参加・支援していただける方がひとりでも多くなることを祈念して、オイスカ高知県推進協議会発足に当たっての挨拶とさせていただきます。



会長 西山 昌男



森のつみ木広場にて、紙芝居で森のしくみを学ぶ子ども達



ふれあい親子体験ツアーでは、ダムや発電所のしくみを学びました

### 綾川推進協議会

#### オイスカ勉強会では オイスカについて しっかり学習しました

平成23年6月21日にオイスカ四国研修センターにおいて第一回オイスカ綾川推進協議会の再編総会が開催され、この度の役員選任で会長に就任いたしました大方義裕と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

綾川地区は、研修センターの藤元として、昭和58年にオイスカ綾南支部が発足した歴史ある場所です。発足当初から、研修生と、地区の会員や住民との交流は盛んにおこなわれ、現在も続いています。また、地元の綾川町もオイスカ活動にご支援をいただいています。先輩の方々が築いた良き伝統を生かし、今後は会員増強による組織強化を図ると共に、研修センター行事への参加交流や他の関連組織との連帯強化を進めます。

新体制の下、8月2日に「オイスカ勉強会」を開催しました。会員など18名が研修センターを訪問し、研修生の日課である国旗降下を見学しました。一生懸命に取り組む研修生たちの様子に感銘を受けた会員も多くいらっしゃいました。次に、研修生と夕食を食べながらの交流を行いました。そし



会長 大方 義裕



研修生の祖国へ敬意を表し行う国旗降下



研修センターの歴史やその運営について学びました

### 坂出推進協議会

#### 「がんばれ東日本、 がんばろう日本」

3月11日夜半、テレビに映し出された光景は、圧倒的な自然の猛威にあつけなく壊されていく古里の街並みと田畑でありました。まさかと言葉を失い、ため息しか出てきませんでした。

3月8日は坂出推進協議会主催のチャリティーゴルフコンペ申し込み締切日でした。

主旨はオイスカ創立50周年と2月より公益法人移行への門出を祝し、さらには四国支部の主要な活動である「山林SUN体験植林」尾瀬山とインドネシアロンボク島植林の資金面からの支援、併せて、オイスカ活動の普及を図る事でした。

3月13日予定通りチャリティーコンペの組合せ会を開催。重い空気の中、誰とはなく『がんばれ東日本、がんばろう日本』をスローガンにし、チャリティーの収益金は全額東日本の被災地に義援金として贈ること一致。組合せに着手。

3月14日主旨変更のお願いと組合せ表を登録者全員に送付。

3月24日快晴。坂出CCCに121名全員集合。表彰式はショットガン



会長 石井 淑雄

方式を採用した為、出席者を余り待たすことなく行われました。冒頭、震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷が捧げられました。次に和気あいあいの中、賞品の授与が行なわれ、チャリティー収益金は翌日オイスカ本部に全額義援金として贈らせて頂きました。大震災から5ヶ月以上過ぎた今も、多数の方が行方不明になっており、被災地の復興も遅々として進んでいません。また、福島の原発も収束の目途が不確かです。坂出推進協議会は、被災を我が身と捉え、被災地に心を馳せたいと思えます。本年度は四国支部の活動に全面協力と、会員増強です。被災地で植林が出来る日を待っています。

## 高松推進協議会

### 大震災の教訓

日本は「平和で、安全で、豊かな国」であったはず。ところが、昨年は尖閣諸島をめぐる出来事があった、日本の「平和」は大きく揺らぎました。今年は、東日本大震災が発生し、さらに原発事故が続き、日本の「安全、豊かさ」が損なわれました。それまで、平和も安全も豊かさも当たり前が続いていくものと思っていた日本人が、当たり前ではなく、一瞬にして崩れてしまうもの、大変な苦労をしながら守っていかねければならぬものだと体得したとすれば、それは大変貴重な教訓を得たと言えるでしょう。

苦難は人の意識を変え、また時にエネルギーを与えるものです。楽天の創業者三木浩史氏は、阪神大震災で親族を失い、「命に限りがある」ことを身をもって知り、銀行を退職して起業したと言います。豊田佐吉翁は、関東大震災後の東京で、復興のために活躍するアメリカのトラックを見て、「自動車は凄い!」「いつかは国産化を」と思い、自動車産業の事業化を決意したと言います。今こそ、日本の復興に向けて、皆のエネルギーを一つにしなければなりません。あわせて、オイスカの益々の隆盛を祈念します。



会長 加藤 英輔



定例総会ではトゥーメンさんからモンゴルについての発表がありました



研修センターの生産物を購入し運営を支援

## 中讃推進協議会

### みたから市と エスニックカレー

オイスカ中讃支局の折、前会長の氏家チエ子様より会長職を託され、自分自身の勉強不足もあって、最初は手探り状態の中、オイスカの現状把握から始めました。そして、どのようにサポートすべきか、会長として何をすべきかを考えながら、3年が過ぎようとしております。

この間、オイスカ本体は公益財団法人移行という一大事業があり、支局の名称も平成23年2月から中讃推進協議会に変わりました。しかし、会員の根底にあるのはオイスカをより良くサポートする推進協議会でありたいと思う心です。

サポートの一番は、先ず会員の増強と考え、定例総会にオイスカのパンフレットと入会申込書を会員に1人に二部宛て手渡し、新規会員の獲得に地道に活動しております。

活動の二番目は丸亀通町商店街における「みたから市」への参加です。毎月第四土曜日に開催されますが、少しでもオイスカの名称が一般の方々に理解頂けたらと思う気持ちとオイスカの現金収入の一部になればとの考えで活動しています。

毎回季節の新鮮な野菜や漬物、鶏卵、手作り菓子が出品されます。



会長 中野百合子



新鮮な平飼卵とカレーが人気です



美味しい季節の果物のジャムは定番商品です

中でも目玉は研修生のレシピで作るカレー(スリランカ、インド、インドネシア、バン格拉デシュ、etc)です。エスニックでもとても美味しく、「みたから市」の参加者にとっても喜ばれています。

## 三豊推進協議会

### 研修センターの 活動支援

オイスカ三豊では、これまで年一回海外植林と地元地域での植林活動支援を中心に活動してきました。平成22年11月19日〜23日まで、21名がフリーピン・サガイ市の地域の方と一緒に5,000本のマンダロープの苗木を植樹しました。地元のオイスカサガイの会員の皆様から温かいおもてなしを受け、予定通りプログラムを終了することができました。日本からの参加者からは、貴重なマンダロープ植林の機会を得ることができたことと好評でした。

また、最近の動きとしては、研修センターで実施する研修生の視察の受け入れや講義を行っています。株式会社 イナダでの生産現場の視察のほか、ものづくりにおける5Sについて、地域発展における女性の役割、人材育成についてなど、多岐にわたるテーマで講義をしました。オイスカ四国研修センターが受託した国際協力機構(JICA)の研修コースは、地域振興を図る青年研修や農産物加工の研修です。出身国はアジアだけにどまらずに、アフリカや太平洋諸国からの研修生も多く、毎回の出合いを楽しみにしています。



会長 稲田 寛



マンダロープの植林の様子



ものづくりの現場を視察

## 香川女性部

### さらなる 発展をめざして

オイスカ香川女性部は、昨年創立30周年を迎え、オイスカ本部、四国支部をはじめ地元の皆様に多大のご支援をいただき記念行事を開催いたしました。

30周年を期に、また、本部、支部の公益財団法人への移行等を踏まえ、香川女性部におきましても、今後の組織のあり方について検討をすすめてまいりましたが、去る6月12日に開催されました本年度の総会におきまして、今後とも、オイスカ会員として四国研修センターの研修生への支援を継続していくことといたしました。香川女性部の発展的解消が決議されました。

永年にわたる香川女性部へのご支援に対しまして、会員一同心から厚く感謝申し上げますとともに、今後ともオイスカの一員として、さらなる発展に尽力してまいります。よろしくご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



初代会長  
篠塚 トヨ先生



二代目  
善生 トミ子会長



三代目  
吉岡 和子会長